

## 中学校における学校図書館の生徒向け選書の現状と課題

熊川 裕志朗

近年、電子書籍の登場やライトノベルの一般化などといった出版状況の変化が著しく、若年層の読書への需要や形態にも大きな影響を与え続けている。また、それに伴い学校図書館に対する生徒からのリクエストをはじめとした要望も変わりつつあり、学校図書館は蔵書構成や選書傾向を大きく改革することが求められ始めている。学校図書館の蔵書構成については、2013年の「はだしのゲン」の閉架の論議など、子ども達にどのような図書を与えるのが適切かに関して、学校図書館の蔵書構成が問題視される事例が見られるようになった。また、先行研究では過去の学校図書館の選書について、選書方針の明確化が不十分であるといった指摘も見られるが、近年の変化を受けた学校図書館の選書の現状がどのようなものであり、生徒によりよい図書の提供が行なえているのかについて十分に明らかにされていない。特に思春期にあり読書から多大な影響を受ける中学校において、選書の在り方を検討する必要があると考える。

よって本研究では、中学校の学校図書館の選書活動の現状と課題について明らかにし、生徒に対して図書を効果的に提供する方法を考察することを目的とする。また、研究方法は文献調査と聞き取り調査である。文献調査では1990年代以降の中学校の学校図書館の選書論を扱った文献を調査した。聞き取り調査では、公立中学校と私立中高一貫校の中等部をそれぞれ一校ずつ訪問し、学校図書館担当者や読書指導担当者に対して半構造化インタビューを行った。質問内容は「生徒や学校教員の図書館利用に関するもの」、「選書の方針、内容に関するもの」が主であり、選書の具体的な内容に加えて、授業や生徒の利用状況も含めた学校図書館の現状についても調査を行った。

調査内容の分析の結果、文献調査では近年の学習指導要領改訂の観点から、学校図書館には生徒の自学自習に寄与することが期待されており、以前よりも生徒の自習のための学習向け資料を集めることの重要性が高まっている面があることが明らかになった。また、聞き取り調査では選書の大半が生徒からの要望で占められていること、校内へのインターネットの普及の影響から、学校図書館での学習機会も減少しつつあるという現状が明らかとなった。しかし、生徒や教員からのリクエストを選書に反映する姿勢が回答から見られ、学習向け資料の収集に積極的な姿勢を近年の学校図書館に見ることもできた。

これらの結果から、学校図書館担当者が教員と連携し、生徒に学校図書館を利用する学習機会を提供することや、図書と共存する形でインターネット上の電子資料を提供するために、図書と電子情報源を含めた選書法を確立することが、学校図書館の蔵書を効果的に生徒に提供するために必要であると考えられる。

(指導教員 平久江祐司)